

ソフトウェア品質シンポジウム2020
2020年9月11日



A3-2【経験論文】

レビュー記録票を活用した レビュー振り返りの提案

2019年度 ソフトウェア品質管理研究会
研究コース2 ソフトウェアレビュー

研究員
ズ)

： ★澁谷 将行（株式会社トーセイシステム

： 福田 秀樹（TIS株式会社）

： 山田 健右（ジブラルタ生命保険株式会

社）

主査

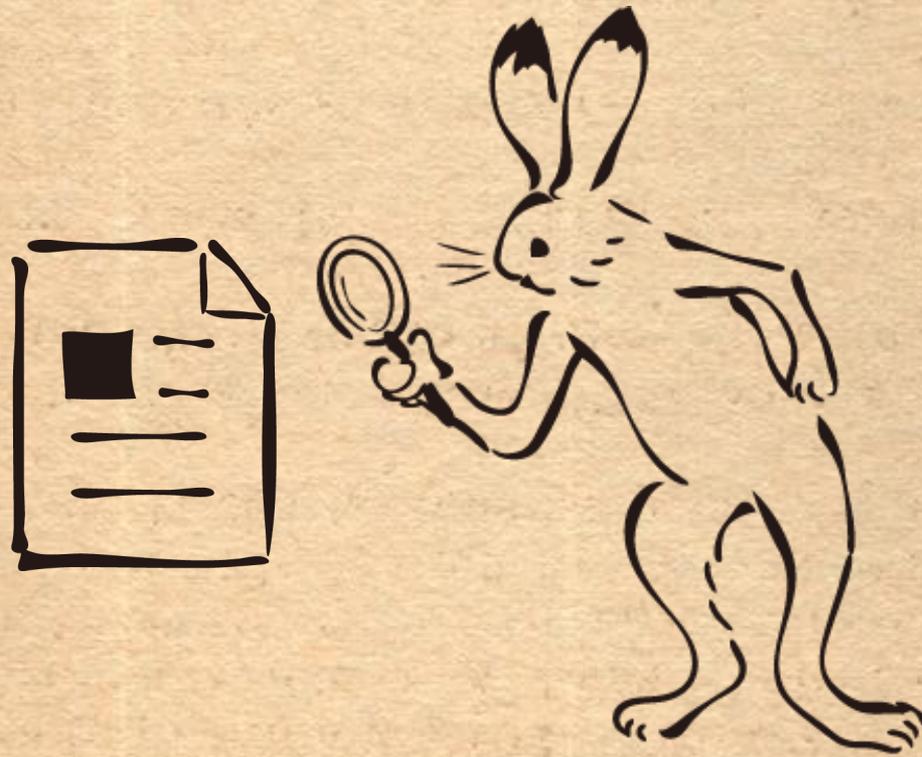
： 中谷 一樹（TIS株式会社）

副主査

： 上田 裕之（株式会社DTSインサイト）



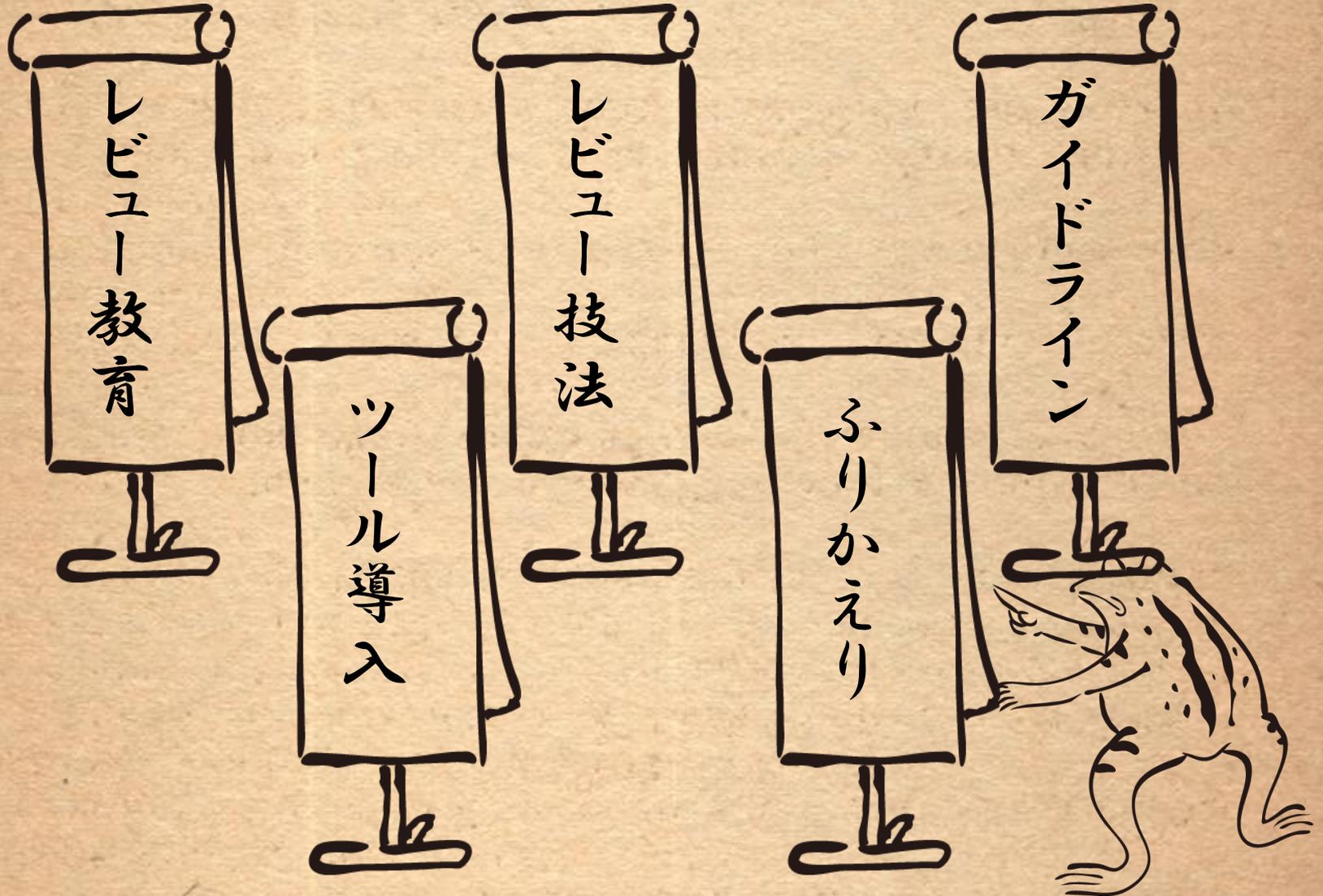
レビューをしていますか？



レビューの質を
良くする活動をしていますか？



質を良くする活動



なぜ振り返り??

自分達の環境に合わせて、
一步一步前向きに改善を進めていける



振り返りを うまく活用できている??

積極的に振り返りをしないのはなぜ?

振り返りをしても改善につながらないのはなぜ?

KPT YWT
KPTA ROTT
...



振り返り の 敵



記憶喪失

- 思い出せない
- 思い出してもぼんやりしてる



自己中心

- 自分の役割・立場から考えてしまう
- でも自分自身を分析するのは難しい



ダメ出し

- ダメなところに意識が向く
- 意気消沈、視野狭窄、思考停止



ワンマンショー

- 声が**大きい**人が話してばかり
- 声が**大きい**人の意見が採用



敵を成敗できたなら??

- 記憶喪失
 - 記録したものがあれば?
- 自己中心
 - 他人を気にできれば?
- ダメ出し
 - 良いところを見れば?
- ワンマンショー
 - 全員意見を出せれば?



R3法

レビュー記録票を活用したレビュー振り返り手法
(Retrospective method for review improvement
using Review Record form)



point+レビュー後に

事実に基づいて
参加者全員が
お互いに自分と相手の
良いところも含めて
振り返る

R3法のエッセンス

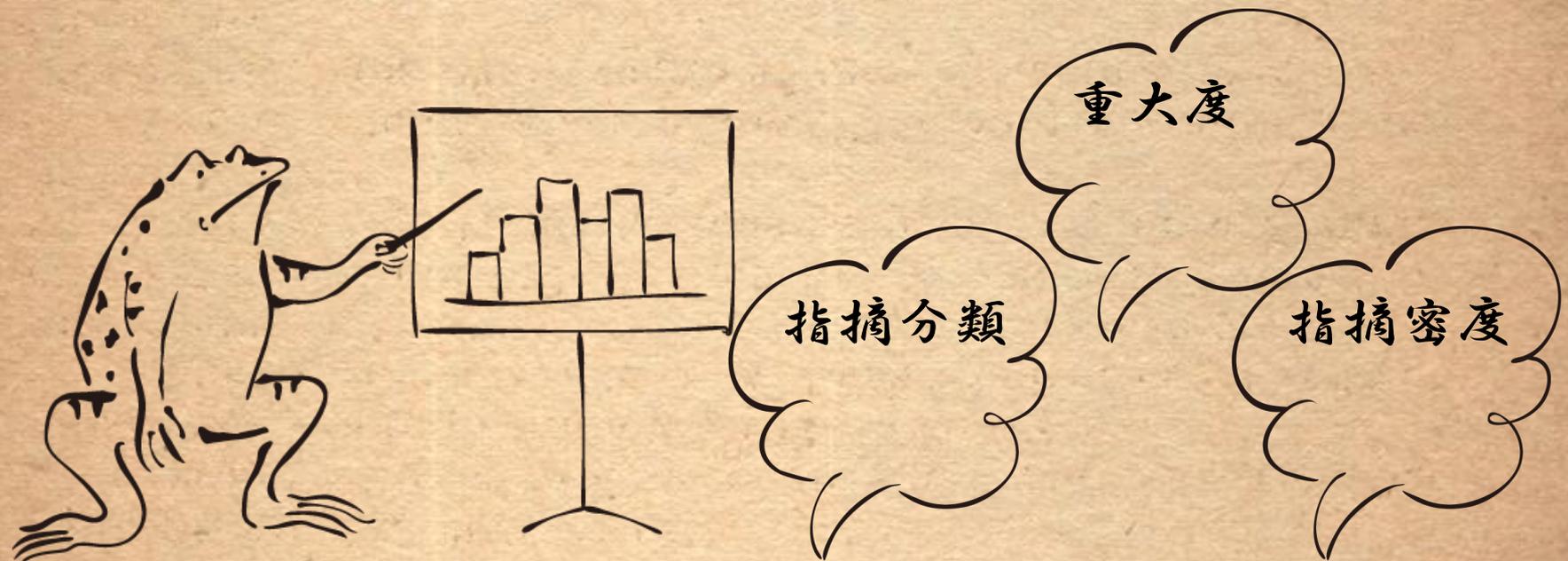
- レビュー記録票
- ジョハリの窓
- NEW* • 役割毎の振り返りフォーマット
- NEW* • 相互の認識突合せ表



レビュー記録票

記憶だけに頼らない振り返り

レビューにおける客観情報(事実)を使用



記憶喪失



成敗



ジョハリの窓

他人の意見を取り入れる

心理学に基づいた自己分析を使用



	自分が知っている	自分が知らない
他人が知っている	①開放の窓 (Open Self)	②盲点の窓 (Blind Self)
他人が知らない	③秘密の窓 (Hidden Self)	④未知の窓 (Unknown Self)



自己中心

成敗



役割毎の振り返りフォーマット

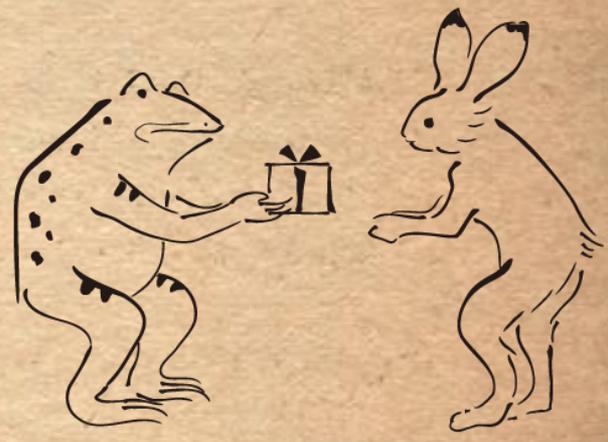
(TRCCマトリクス : Two Roles Continue and Change matrix)

お互いに褒める&アドバイスする

役割毎に分かれて

自分と相手のContinue & Changeを抽出

自己(want to)	他己(want you to)
続けたいこと(Continue)	続けて欲しいこと(Continue)
〇〇が□□だったので、 ××を続けたい	××の部分が〇〇で良かったの で、続けて欲しい
変えたいこと(Change)	変えて欲しいこと(Change)
〇〇が□□だったので、 ××を変えたい	××の部分が〇〇だったので、 変えて欲しい



ダメ出し

成敗



相互の認識突合せ表

(MRM : Matrix table to Reconciling Mutual recognition)

全員の意見をすり合わせる

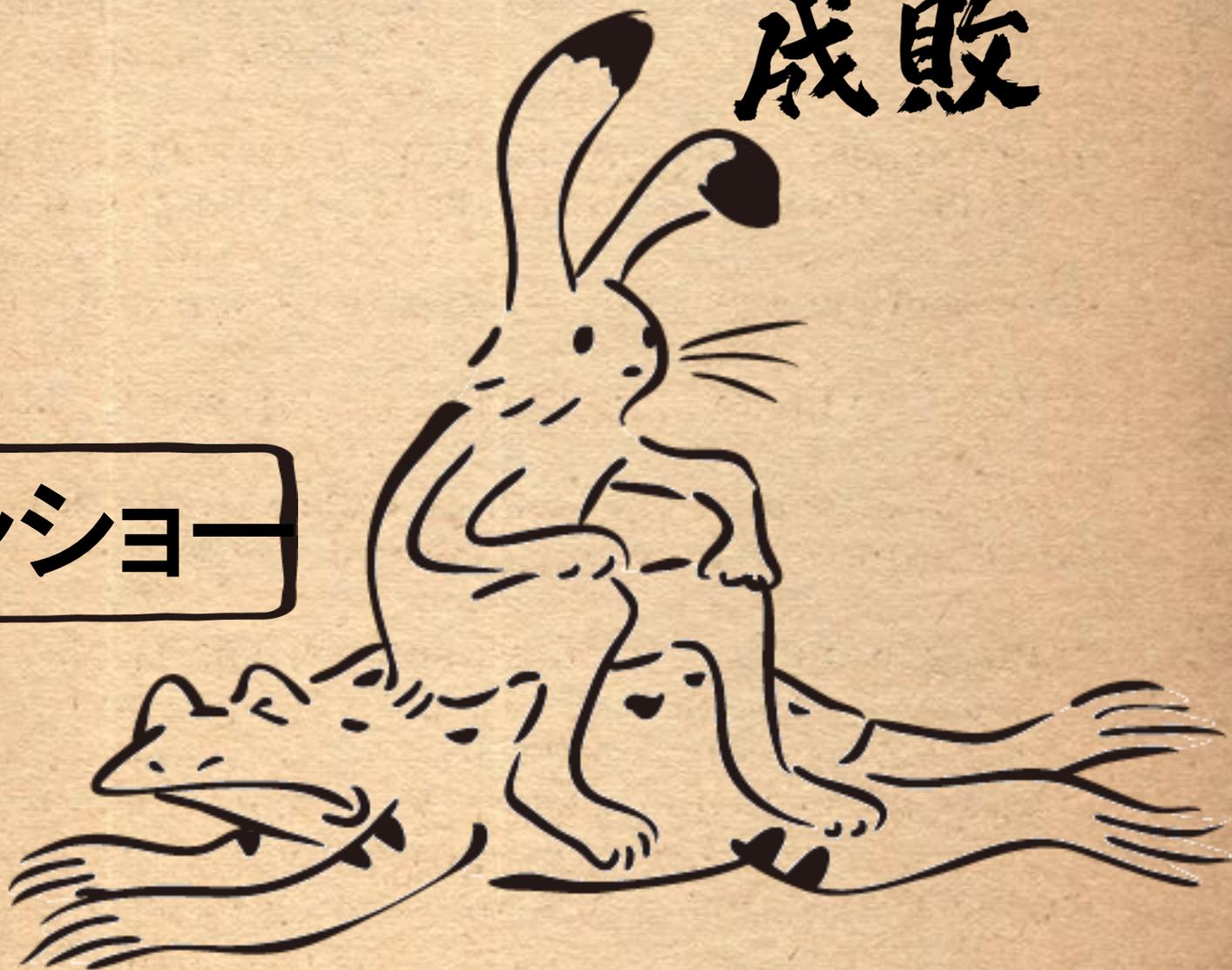
お互いに持ち寄った意見の擦り合わせで
認識のギャップを減らす



		自分		
		Continue	Change	None
他人	Continue	開放の窓(一致)	開放の窓(相違)	盲点の窓
	Change	開放の窓(相違)	開放の窓(一致)	盲点の窓
	None	秘密の窓	秘密の窓	閉ざされた窓

成敗

ワンマンショー



R3法の実施手順

- ①レビュー振り返りの目的の設定
- ②レビュー振り返りの観点の設定
- ③役割毎の振り返り
- ④振り返り結果のマージ
- ⑤施策の検討と決定



レビュー振り返りの**目的**の設定

何のために振り返るのかの認識を合わせる



ゴールを認識することで、効果と効率UP



レビュー振り返りの**観点**の設定

目的の達成に繋がる

レビュー記録票の考察観点を決定する



確認観点を明確にすることで、効果と効率UP



✓ 指摘内容の分類

✓ 原因工程

レビュー工数密度

不具合検出率

etc...



役割毎の振り返り



作成者



レビューア



自己	他己
Continue	Continue
	 
Change	Change
 	

自己	他己
Continue	Continue
 	 
Change	Change
	  

振り返り結果のマージ



作成者



レビューア



自己	他己
Continue	Continue
Change	Change

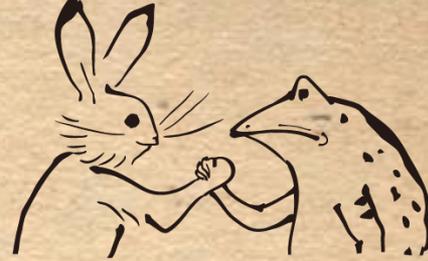
自己	他己
Continue	Continue
Change	Change



		自分(作成者)		
		Continue	Change	None
相手(レビューア)	Continue			
	Change			
	None			

		自分(レビューア)		
		Continue	Change	None
相手(作成者)	Continue			
	Change			
	None			

施策の検討と決定



		自分		
		Continue	Change	None
他人	Continue	開放の窓(一致)	開放の窓(相違)	盲点の窓
	Change	開放の窓(相違)	開放の窓(一致)	盲点の窓
	None	秘密の窓	秘密の窓	閉ざされた窓

窓	意味	アクション
開放の窓 (一致)	互いに同じ事象に対して、共通の認識がある。	互いに続ける, 又は変えるべきだと認識しているため, 優先的に取り組む。
開放の窓 (相違)	互いに同じ事象に着目しているが, 認識にズレが存在する。	認識のズレがあるため, 早急にズレを解消するための話し合いを設ける。
盲点の窓	自分が気づいていない事象だが, 相手が気になった事象が存在する。	相手から内容を聞き, 自分達がすべき施策を検討する。
秘密の窓	自分は気にしている事象だが, 相手は気にしていない事象が	相手に内容を伝えて意見を募った上で, 継続や廃止, 改善を検討する。

R3法の実施手順（復習）

- ①レビュー振り返りの目的の設定
- ②レビュー振り返りの観点の設定
- ③役割毎の振り返り
- ④振り返り結果のマージ
- ⑤施策の検討と決定



実験結果(件数)

1つのプロジェクトにR3法を適用

作成者

振り返り

	自己	他己
Continue	0	2
Change	2	1

突合せ表

		自分(作成者)		
		Continue	Change	None
相手	Continue			1
	Change		2	
	None			

レビューア

振り返り

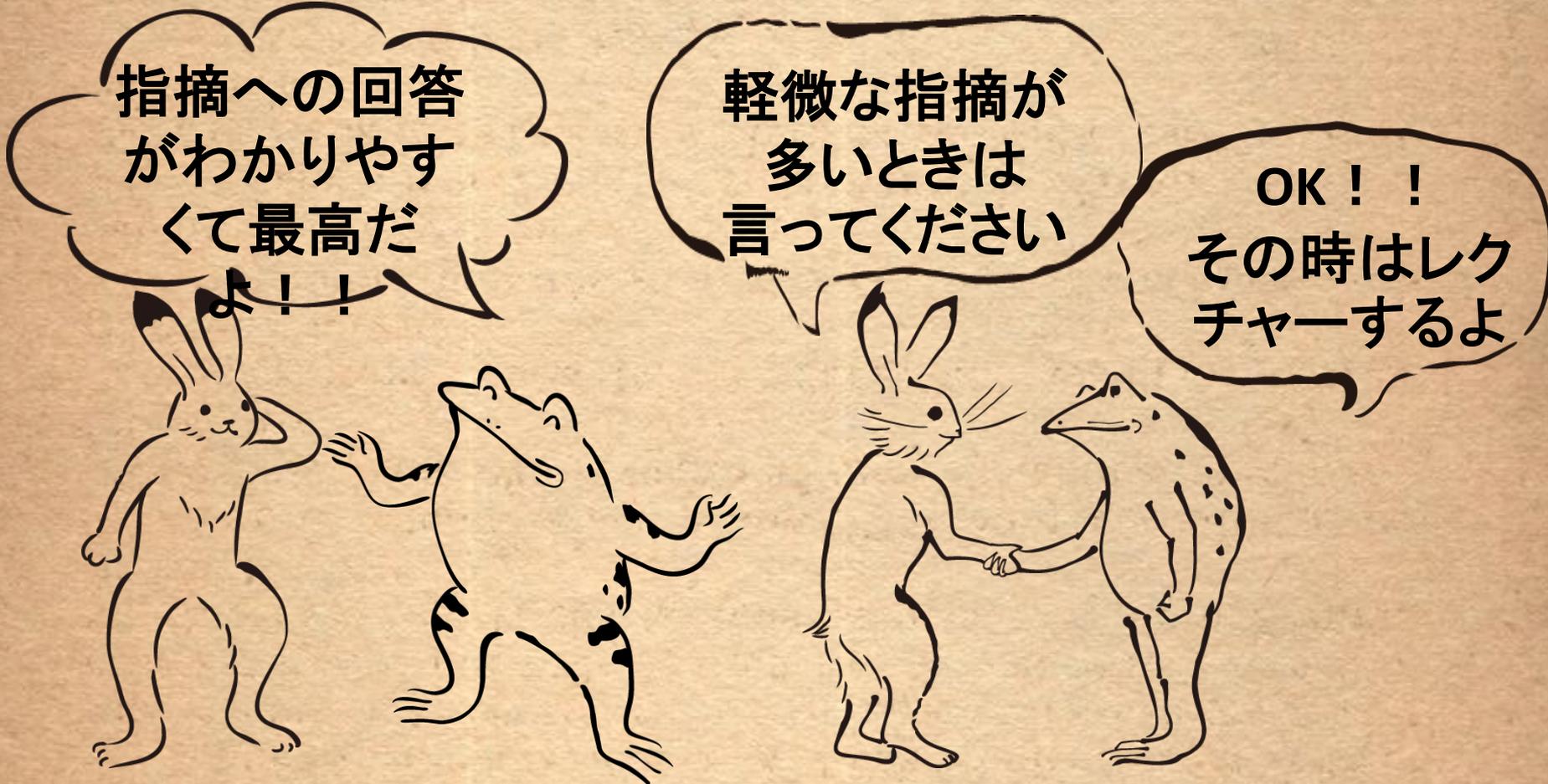
	自己	他己
Continue	1	1
Change	3	2

突合せ表

		自分(レビューア)		
		Continue	Change	None
相手	Continue	1		
	Change		1	1
	None		1	

相互に意見の一致と気づきが抽出された

実験結果(具体例)



改善に繋がる施策が抽出された

まとめ

参加者全員が

現状を最適化するために

R3法とは

事実に基づき

お互いの成長ポイントを抽出し

共有することで

前向きな改善を促せる

ポジティブな振り返り



お互いの

せいちよ **兔** のため

ふり **蛙**



白元